mifi news

NPO 法人宮城県森林インストラクター協会
会報 48 号　2013 年 12 月

2013.12
no.48

目　次

・巻頭言　子どもたちに、自然や森林で遊ぶ楽しさを！　　会長　5期　日下　晃　・・・　P．１

・企画部のページ

あらためて「環境教育防災林」と学校の森について

１期　木村　健太郎　・・・　P．２

・震災復興事業部のページ

三井物産交流会に参加して　　１０期　草野　洋一　・・・　P．３

・環境・森林事業部のページ

「にっきそうの森」開所式　　７期　工藤　潔　・・・　P．４

１２期　阿部　郁子　・・・　P．５

１４期生の森づくり　これまでのまとめ　　１４期　壷井　良和　・・・　P．６

・活動報告

もりもり教室染め物　　８期　大浪　幸子　・・・　P．７

働くってなんだろう～利府町キャリアシップ事業～　　２期　進藤　恵美　・・・　P．８

・紙上講座第６回

炭焼きは天下の楽しみ　　４期　藤原　冨雄　・・・　P．９

・施設管理事業部のページ

こもれびの森　山の自然の中で楽しいウッドランドクラブ

９期　小林　妙子　・・・P．１０

ことりはうす　ことりのとりこ　　１１期　馬場　則孝　・・・P．１１

県民の森　県民の森の職員として　　１１期　阿部　英雄　・・・P．１２

・リレー式会員の広場

虫との付き合い　　１４期　高梨　眞二　・・・P．１３

・森林インストラクターＱ＆Ａ

１４期　伊藤　京子さん“キョンキョン”　　・・・P．１４

・安全のページNO.２０

「逃げ出した私の車！」　　１４期　遠藤　博　・・・P．１５

・会員からの寄稿

モンゴル・ゴビ砂漠紀行　　１１期　今野　俊夫　・・・P．１６

・インフォメーション・編集後記　　・・・P．１７

【表紙デザイン：９期　入岡　知美】

巻 頭 言

子ども達に、自然や森林で遊ぶ楽しさを！

会長　５期　日下　晃

偶然乗り合わせた電車の２０人ほどの乗客のほとんどが、無表情のまま無言で小さな箱を見つめ、親指だけをちゃかちゃかと動かし、そこには電子音だけが響いていました。異文化の世界に突然入り込んでしまった感じがしてぞっとしたことがあります。現実と虚構の区別のつく大人ならまだしも、子ども達がこれを当たり前と思ったら、どんな未来になってしまうのでしょう。

世界的なデジタルの波が押し寄せ１９８０年代以降、ゲームやビデオ、パソコン、スマートフォンなど、子ども達が外に出なくても楽しめるものが急増し、子ども達の一日の過ごし方が変わってきたようです。その中で大きく変わったのは、『体を動かさない』『人と触れ合わない』『話さない』という子ども達が増えてきたことです。数年前に信州大学の調査結果が公表され、「日の出や日の入りを見たことがない子どもが４３％」「昆虫を捕まえたことがない子が３５％」もいることが話題になりました。子ども達の自然体験が、年々少なくなっているというデータだったと思います。

子ども達の自然体験は、成長発達にとって大事な役割を持っているという研究もすすめられています。作家Ｃ・Ｗ・ニコル氏は、「子どもは自分を取り巻く環境を手探りしながら世界を広げていく、自然との触れ合いが五感の発達を促すのだ。」（H25.10.22 河北新報「深海に学ぶ」より）と述べています。また、文部科学省も、「自然体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が充実」（生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむーH11.6）していると発表しています。自然体験や外遊びが少なくなると、他者とのかかわりが苦手で、美しいものを見て美しいと感じる心が育たないということも懸念されているというのです。人と上手に関わったり、美しいと感じたりできるのは、生まれた時から当たり前に身についているのではなく、親や周りの人とのコミュニケーションや自然とのかかわりの中から体験したり、学習したりして獲得していくと言われています。

確かに現代の子どもの遊びはテレビゲーム等室内遊びが多く、個人中心になっています。気が付いた大人が子どもに目を向けて、子どもの意識と生活の在り方を変えてやる支援が必要なのではないでしょうか。まずは、子ども達を外に連れ出すことから始めてみませんか。「自然体験でさっそく教育しよう！」と、難しく考えずにまずは一番身近にいる大人が、子どもを外に連れ出し一緒に遊ぶことから始めてみませんか。一人でも多くの子ども達が野山を駆け回り、元気な声が響き渡るととてもうれしくなってきます。

私達宮城県森林インストラクター協会は、「豊かな森林を未来に引き継ぐ担い手の育成を通じ、青少年の健全育成を目指」（協会理念・目標）しています。「もりもり教室」や自然体験学習をはじめ、企業の森を活用しながら森づくりや自然の材料使用のクラフト遊びなど、様々な自然や森林での活動を企画運営しています。また、県内の自然公園などを紹介した『みやぎの自然体験ガイド』も発行しています。私達の企画や取り組みが、“自然や森林で遊ぶ楽しさを！”味わうきっかけとなり、森林での自然体験が、貴重な学びの場となり成長の糧にしながら、前向きに生きる力を育んで欲しいと願っています。

～ きかくがいろん ～

あらためて 「環境教育防災林」と学校の森について

企画部　　１期　木村 健太郎

【自然災害と「環境教育防災林」の意義】

大震災以降、諸活動の目的のひとつに必ずといっていいほど「減災」の文字が入るようになりました。最近はもう何気なく使ってしまっていましたが、台風３０号によるフィリピンの被害があまりに衝撃的で、再度警告を受けた気持ちになりました。

特に映像としてたくさん流れたレイテ島の被害は、我々が食らった大震災直後の状況を思い出させるもので、津波だけでなく「台風」に対する備えの必要性を考えさせられました。ちょうどＣＯＰ１９が開催されている最中で、地球温暖化対策推進の強烈なバックアップにもなったはずです。

日本における防災・減災の施策は、大震災直後に比べるとやや下火になってきた感じがするものの、全国で本当にさまざまな事業が行われています。やはり津波を想定したものが中心になっているようですが、甚だ疑問に感じるものも少なくありません。特に、維持管理にかなりの費用がかかりそうな防災施設の建設などは、後々地域の大きな負担になるそうですし、津波だけでなくさまざまな自然災害に対応できるものであることも重要です。

それでは、我々の「環境教育防災林」はどうなのか、と聞かれそうですが、やはり自信を持って事業拡大させていいのだと思います。「環境教育防災林」は津波を想定したものだと思われがちですが、その真髄は、「日常的に森林で活動することによって、森林資源を有効活用する能力を育むと同時に、自然災害に立ち向かえる強さを身につける」ことにあります。自然災害は種類も規模もさまざまです。「想定」や「シミュレーション」ばかりに頼らず、自然環境に対する感性を研ぎ澄ませ、何事にも臨機応変に対応できる“強靭な柔軟性”を人々の中に植えつけていけるという意味で大きな価値があるのだと思います。

【学校の森シンポジウム開催】

今年１月、“森と子ども達とのいい関係”をメインテーマに、ニッセイ緑の財団との協働による「復興支援シンポジウム」を開催しました。大震災を受けて、学校林の在り方を再検討したいと感じていたので、とても良いきっかけになったのですが、テーマの中心が「減災」や「復興」なのか「森」や「子ども」なのかすっきり整理できないまま終わってしまったのが少し心残りでした。

その反省も踏まえて、再度ニッセイ緑の財団との連携により、来年の１月１９日に２回目のシンポジウムを開催します。テーマは直球勝負の「広がれ　つながれ　学校の森」です。基調講演等はなし。発表者は学校の森を活用している（またはしようとしている）小中学校１２校で、子ども達による子どもらしい発表の場を提供する予定です。第一部の活動発表のあと、第二部は子ども同士による意見交換交流会、第三部は先生方による意見交換会を行うなど、あくまでも学校関係者中心の新しいタイプのシンポジウムになると思います。宮城県内だけでなく、東京や岡山からも参加校があり、我々も参考にできそうな素晴らしい発表を準備してくれているようです。

全ての小中学校が何らかの形で普段から森に関わるようになることが人生の目標のひとつなのですが、シンポジウムの打ち合わせでたくさんの校長先生や教頭先生にご意見を伺うことができ、自分なりにさまざまな障害や問題点が見えてきました。「環境教育防災林」の理念と無尽蔵な自然体験ネタを武器に、学校の森づくり活動を推し進めていきたいと思います。

震災復興事業部

三井物産交流会に参加して

震災復興事業部　１０期　草野　洋一

三井物産環境基金から助成を受けている団体の交流会が９月２５・２６日、日立システムズホール仙台（旧青年文化センター）で開かれ、全国から７０団体１１０人余が参加しました。当協会からは震災復興事業部長・永田傳喜さん、同副部長・高梨眞二さんと私が参加しました。

初日は対話型オープニングセッションで「環境の新しい発想を活かした取り組み」というテーマで「コミュニティソリューション」「地域経済、地域社会の活性化」に関して３人の発言者から事例の紹介があり、参加者と意見交換をしました。そのあと「私が今、伝えたいこと」と題して５人の方が、自分が関わっている団体の現状と問題点などを一人５分間で発表。これを聞いて参加者がどの団体に賛同あるいは応援したいかを投票した結果、一番多くの票を集めたのは閖上で絵灯篭の追悼イベントなどを発表した名取市観光物産協会でした。

続いて「復興支援から見えた、環境ＮＰＯができること、できたこと」「持続可能な生態系保全を考える」「新しい発想や仕組みでの環境保全」「ホームページの魅力を１２０％にあげるＨＰ改善セミナー」の４つの分科会にわかれてのワークショップ。わが協会が行っている小学校の裏山整備等の環境教育防災林、生活用水としての井戸掘り活動などに関心が集まり、各分科会のまとめのなかで紹介されました。

夕方から懇親会が開かれました。助成団体はNPO、大学がほとんどで、その活動は海、森林、調査、海外の開発途上地区での支援など多岐にわたっていて、お互いの活動状況などについて話し合うことができました。

２日目も午前は「生態系と生物多様性を生かした震災復興」「コミュニティ再生に必要なこと」「多様なステークホルダーを巻き込んだ環境活動」「ファンを増やす発信力ＵＰセミナー」の４つの分科会に分かれてのワークショップ。まとめの発表があって交流会は終了しました。

午後は石巻の「水産復興特区第一号」の認定を受けた「桃浦かき生産者合同会社」（ＬＬＣ）への視察。未だ津波の傷跡が残る漁港で代表者から「家、船、養殖施設を失い、桃浦村落が壊滅に至った」という話を聞いたあと、事務所に移動。代表者と社員７人から合同会社立ち上げまでの経緯を聞きました。かき養殖を核とした村落復興を決意し、そのために次世代に引き継ぐことを考えて会社組織にしたこと、会社立ち上げにあたっては㈱仙台水産から全面的にバックアップを受けたことなどの話のあと質疑応答へ。驚いたのは水産特区で反対をしていた県漁協の組合員が同席していたこと。県漁協との関係を聞いたところ、主に反対しているのは役員で組合員は反対していないし、近隣漁港とは従来通り仲良くやっているとのことでした。

１０月１５日に「特区認定後初めてのかき出荷作業が始まった」と新聞、テレビで報道されました。

交流会は年２回各地で開かれ、仙台では２回目の開催でした。

～新たな企業の森づくりに「にっきそうの森」が加わりました～

「にっきそうの森」　開所式

環境・森林事業部　７期　工藤　潔

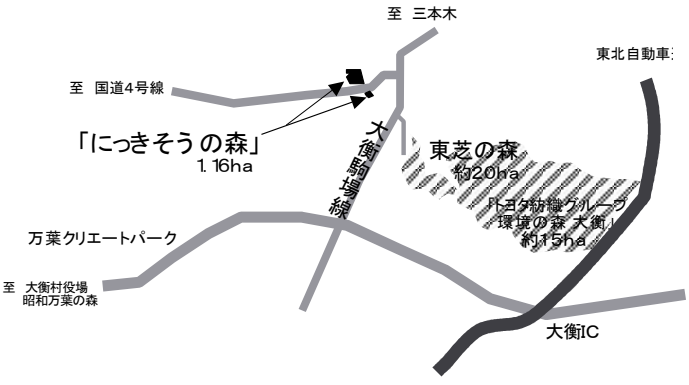
１０月１２日、大衡村万葉の森の東方「東芝の森」に隣接する県道沿いの一画が賑わいを見せていました。県の「わたしたちの森づくり事業」制度に沿った企業、日機装株式会社の森のオープニングセレモニーが行われていたのです。日機装社８０名、県、大衡村の来賓、協会員と総勢１００名を超す大人数がこの地に集まりました。

同社甲斐社長、若生副知事、跡部大衡村村長、当協会日下会長列席による看板除幕、記念植樹等一連のイベントもスムーズに進み、式典の後は、社員皆さんによるシンボルゾーンへの植樹、森本体での遊歩道開設作業、不要木の除伐作業等の森づくり活動と予定されたすべてのプログラムを滞りなく終えることができました。

同社にとって今般のような森づくりは、初めてのケースとの事ながら、冒頭の甲斐社長の熱意溢れる挨拶や、社員皆さんの森づくり活動への活発にして熱心な取り組み姿勢には、我々一同にもこれからの活動に期待充分な予感を持たせるものでした。一時間弱の作業ながらその出来栄えを喜び、物足りない、もっともっとやりたかったなどの感想をもらしていた事からも、その取り組み姿勢の一端を見る事が出来たようです。この後も、年２回ほど社員皆さんによる森づくり活動を続ける、という事も頼もしい限りです。

この森は約１ha とコンパクトながら、その奥には区域外ですが溜池と隣接し、傾斜も緩い地形で、コナラを主とする林相は典型的な里山であり、穏やかで親しみやすい森にできそうです。県道に沿うシンボルゾーンに植えられた、同社本社が所在する東京都の木としてのソメイヨシノやオオヤマザクラ、イロハモミジ、更に林床を彩るヤマブキ、ミヤギノハギなどの木々が育ち花を付け、ここが「にっきそうの森」と主張できるようになる事を期待したいと思います。

※右から、跡部村長　若生副知事　甲斐社長　日下会長



これからは、森全域の刈り払い、危険枯損木の処理などを行い安全に立ち入れる様にして、美しい森へと完成度を高める社員皆さんの森づくり活動の手助けをすることになります。

この冬から本格的な整備活動に着手しますので、ぜひご参加下さい。

「にっきそうの森」の開所式の様子です。北海道から九州まで、全国から約８０名の参加がありました。セレモニー時は雨がパラパラ降っておりましたが、しだいに雨もあがって植樹や森の整備活動ができました。

みなさんとてもはつらつと作業に取り組んで、協会で思っていた以上の働きだったようです。おそらく次の日は筋肉痛だったのではと・・・。それでも楽しそうな顔をしていたのが印象的でした。

「にっきそうの森」、今後の姿が楽しみな森になりそうです。

（撮影・レポート：会報委員　１２期　阿部 郁子）

～　「みんなのもり」誕生です　～
１４期生の森づくり　これまでのまとめ

環境・森林事業部　１４期　壷井　良和

１４期生の森づくりは平成２５年４月６日に２７人が集まって、与えられた森の踏査、そして今後の森づくり活動（月に２回程度の整備作業）計画などの打ち合わせを行いスタート致しました。

唯、この森での植樹祭は１１月９日にすることはすでに決まっていました。しかし、何処に植樹をすればいいか森の地形や状況が全く分からないくらい笹が生い茂り、栗の木なども蔓が絡まり半分以上が枯れた状態にありました。

中央歩道に設置したモニュメントと倒した大きなクリのベンチ

まず、地形を確認するために笹の全面刈を行い、刈払い、集積を繰り返すことにより森の全体像が見えてきました。地形を確認することができ、皆で話し合って植樹候補地を決めることがでました。しかし植樹地には蔓の絡まった栗などの木が多くありその殆どを伐倒しなければ植樹地を確保できない状態でした。それらもなんとか１０月の末までに処理ができ植樹ができる状態にこぎつけました。

ハッチーの森モニュメント前の意味不明？なベンチ

１４期生の森は話し合いの結果「みんなのもり」と命名され１１月９日に宮城県ＥＮＥＯＳの森植樹祭として参加人数、約１００名で盛大に執り行われました。

植樹面積は約０．１７ｈａ、植樹樹種は、ヤブデマリ、ヤマツツジ、オオシマザクラ、コブシ、ヤマボウシ、アオダモ、ハクウンボクなど２３種１００本で構成されています。

計画づくりに始まって、当日の挨拶･司会･作業説明など、全て14期生が担当しました。(11／9)

１４期生として取り組んだ最初の大仕事も綿密な計画と、チームワークで完成させた上々の出来栄えに一同喜びと共に自信をも得られた、素晴らしい経験だったと感じています。

隣の「いろはの森」(13期生担当)では、13期生が午後までかかって素敵な樹名板を設置しました。(11／9)

勿論、これで１４期生の森「みんなのもり」が完成したわけではありませんが名前のとおり皆が楽しめる森に今後も引き続き育てていきたいと思っています。

１４期生の皆様、そして協力くださった先輩インストラクターの皆様有難うございました。

活動報告

もりもり教室染め物

８期　大浪　幸子

私が染め物に興味を持つようになったのは、十数年前に授業で染め物を扱ったのがきっかけでした。染め上がったときに生徒に「良くできたね」「きれいだね」と言われやみつきになったのです。

私はインストラクター養成講座の終わりになって、インストラクターとしての活動として自分で楽しめる何か１つを続けてみようかと思ったのです。草木染めや藍染めがどうインストラクターと繋がるのか、今考えると首をかしげるような内容ですが、たまたま木村健太郎さんからもりもり教室で染め物をしてもよいとの許可をもらい、喜んで毎年やるようになりました。

もりもり教室で草木染めをする時は、青少年の森の周辺にどんな草木が元気に育っているかを見てから「何を染めるか」を決めます。たとえば今年１０月のもりもり教室では、青少年の森のゲート外にコアカソがまだ生き残っているのを見つけて、それにしました。このときのコアカソはハンカチをピンクに染めてくれました。藍染めの藍は自分で栽培をしています。私は生葉染めが好きなので、８月～９月のもりもり教室は藍の葉っぱのたたき染めをします。でも、本格的な藍染めも参加者にとっては刺激的なのではと思い、臭い藍液もつくります。藍を今年は２種類をプランターや鉢に育てました。種は５月に蒔き、マルチをして一番刈り、二番刈り、そして、花を咲かせて１１月には種取りをします。刈り取りした葉は乾燥して次の年のために蓄えます。

染め物の醍醐味は色です。同じ桜でも取った時期、取った所、煮た量、染める布地の質などでクリーム色から小豆色までどんな色になるか分からないのです。昔の日本人が名付けた色の名前はものすごい数で、参加者の染めた色も様々です。もりもり教室の参加者には２度３度と参加してくれるリピーターがいるので、ちょっと面白いと思った人も少しいるのかな。でも、一番楽しんでいるのは私なのです。

私のもりもり教室には染め物以外の方に結構力が入ります。折り紙、カリンバ演奏、カルメ焼き、クッキーつくり、うどん打ちなど。どうしても染め物は参加家族のお母さんがおもに動くので、飽きてきた小さな子どもや関心のない子どもをどうにかしようとする苦肉の策です。小さな子どもには折り紙が好評で、折り紙お姉さんのコーナーには列ができます。洋館のホールで行うカリンバお兄さんのミニコンサートも好評でした。厨房担当のやえさんの味は参加者全員が大満足です。

もりもり教室で行う染め物教室でのおもしろさは、参加者とインストラクター、そして折り紙や演奏、料理に参加するボランティアのみなさんとやりたい放題やっている中でお互いに絡み合いながら楽しむこの２時間なのかもしれません。

働くってなんだろう ～利府町キャリアシップ事業～

２期　進藤　恵美

今年も大勢の中学生が県民の森にやってきました。１１月１１日から５日間、連日約 30 名ずつほぼ男ばかりを受け入れて、林業体験をしてもらいました。

キャリアシップ事業とは、利府町内の３校の中学生が町内の事業所 40 か所余りに履歴書を出して希望する仕事を体験します。実際に働くことで仕事の意義を見出し、将来の自分や社会の仕組みを考えることを目的とするものです。

森林観察、伐倒見学、除伐作業、竹林・樹園整備、遊歩道づくり、スギ丸太加工、マキ割、井戸掘り、樹木剪定、タイヤ交換、施設周辺の整備、イベント用のツル取り、クラフト、そして５日間皆勤した生徒は刈り払い機を使った整備作業までと、盛りだくさんのメニューを用意しました。働いてお金を得るとはこういうことだとインストラクター諸氏も真剣に熱く取り組みました。

ヒノキ林では、林業として成り立つには品質の良い売れる材を作らなければならないこと、しかし手入れしながら切るまでには最低 60 年もかかり、自分の代ではできないという説明がありました。伐倒見学では、危険を伴う作業であること、商品価値を落とさないように丁寧に扱うことが大事であると伝えられました。マキ割作業では細かく割ったのでは燃焼効率が落ち売り物にならないと、厳しく言われながら、初めて持つチェンソーや斧を真剣な面持で使っていました。気持ちがたるむとツネさんの怒号が飛び、罰として全力疾走させられる場面も見られましたが、厳しい師弟関係を楽しんでいる様子でした。「とうはつの森」に入ってツル取りの作業もしました。５日目ともなるとたくましくなり、どんどん藪の中に入って、からみついたツルを取ってきます。それを材料としてリースづくりや籠編みをし、誰かに教えることを目指しました。

働いた後の何よりの楽しみはお昼ごはん。毎日心づくしのお汁が出ました。カイチョーの白菜やテンチョーのサトイモなどなどが登場。今日は何汁かなあとみんな楽しみなお昼でした。数少ない女子生徒が率先してお手伝いしてくれたこともうれしいことでした。「ENEOS の森」に中学生が作った遊歩道を見てください。14 期生の「みんなの森」がぐっと整備しやすくなったと思います。県民の森は大勢のお客様を迎える施設でもあります。来館者が気持ちよく過ごせることを考えさせながら、学習館の周りの片づけをしてもらいました。なかなか進まなかった整理整頓がたった数日間でスッキリと整えられたことにお気づきでしょうか。

ある生徒に、なぜ実習先を県民の森にしたのと聞いたら、先輩が楽しいと言っていたからだそうです。今年もみんな、楽しかったと帰って行きましたが、林業が抱える問題も伝わったでしょうか。林業から施設管理の心構えまで、インストラクターが中学生に伝えたかったことがたくさんあります。若い世代と共に考える良い機会でした。

紙上講座
第6回

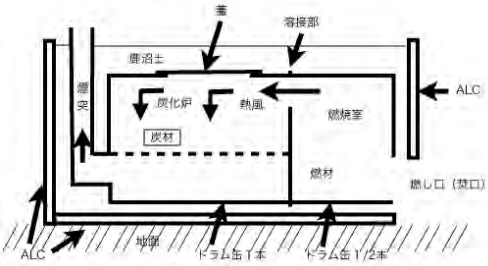
炭焼きは天下の楽しみ

４期　藤原　冨雄

「炭焼きは天下の楽しみ」とは農山漁村文化協会発刊の「現代農業」に掲載されているコーナーのタイトルです。長い間楽しんできましたがこの記事で私は究極の炭焼き窯「ドラム缶型岩崎式高速炭焼き窯」に出会うことができました。窯の名前にあるように岩崎眞理先生（高校・大学で数学を教えている教育者）が考案したものです。非営利での利用に限定して作成・設置が認められているものであることをお断りしておきます。

炭焼きを始めて１０年くらいになります。そもそも私が炭焼きを始めることになったのは、畑の土壌改善に炭を鋤き込むと良いということからでした。ここでは図を交え、炭焼き窯の作成と炭焼きイベントに関するあれこれについて説明していきます。

【炭焼き窯の作成】



イ）ドラム缶１本を使い、炭材を炭化する炭化炉を作る。外周１/３を切り取り、炭材や炭を出し入れする部分とする。
ロ）燃焼室から熱風を取り入れる接続部の蓋の部分を半月状に切り取っておく。
ハ）ロ）の反対側の底近くに穴を開けて煙突を取り付る。
ニ）別のドラム缶を１/２に切断して燃焼室とし、ロ）の熱風取り入れ部分に溶接する。あらかじめ燃焼室の蓋の部分に穴を開け２０cm×２０cm×２０cm の焚きロを溶接しておく。

【炭焼き窯の設置】

地面を水平にならし ALC(autoclaved lightweight aerated concrete)を敷きその上に鹿沼土を１０cm くらい置き、窯を水平に設置します。四隅に ALC を支える杭を打ち込み、ALC で四方を囲む。窯と ALC の隙間に鹿沼土を詰め、熱を遮断する。

最後に炭焼きイベントを行う際の注意点とコネタを。
◎炭材に適する木→火もちの良さや入手しやすさからナラ・竹類を
◎吸着・消臭には内孔の多い竹炭がおすすめ→内部の孔の総面積は、木炭１g につき１５０畳に対して竹炭は約３倍の４２０畳
◎水分の少ない材の手に入る冬期が炭焼きに最適？竹なら伐採後１週間放置させたもの
◎火事に注意→消防署への届け出を忘れずに
◎五感を駆使して炭を焼こう→煙の臭い、色、内部の温度変化に注意し焼きすぎや生焼けを防止

具体的な炭焼きの方法は紙面の都合上割愛しますが、通常の炭焼き窯では火を入れてから消火するだけでも１０時間以上かかり、一泊二日はかかる大仕事になるのに対し、この高速炭焼き窯を使用すると同じ作業が３時間に短縮され、イベントとしての１日炭焼き体験教室の実施が可能になります。

上の写真は蔵王町観光協会の依頼でことりはうすに作られた岩崎式高速炭焼き窯です。観光協会の企画により年数回炭焼き教室が開催されています。機会があればご参加ください。

施設管理事業部
宮城県こもれびの森
森林科学館

山の自然の中で楽しい
ウッドランドクラブ

こもれびの森　職員　９期　小林　妙子

この頃、こもれびの森森林科学館で仕事をしていると、秋も少しずつその歩を早めてきているように感じます。１１月２日には初霜が降り、湿性植物園は朝の光の中でキラキラ輝いていて、とても素敵な朝をプレゼントしてもらいました。時々、「森林科学館の良さって何？」と尋ねられますが、「静かな自然があることです。」と答えています。

さて、そんな科学館の後期のウッドランドクラブのイベントを紹介しましょう。７月の「川遊び＆自然観察とデイキャンプ」が定員オーバーでお断りすること多数でした。なんとかしましょうと８月１８日に第二弾を開催しました。４９名の参加者の皆さんと共に、イワナの掴みどり、さばき方、塩焼き作りと流しソーメン、スイカ割りをワイワイ楽しみ、第二弾も大盛況！でした。

８月３１日には、今期２度目の藍染めの会をしっとりとかつ、それなりに賑やかに、草木川で洗い流して藍色に変わる瞬間を楽しみました。もちろん最近の科学館の定番、ピザと流しソーメンも楽しみました。ピザは市販のピザに具と２種類のチーズを上乗せして、ボリュームを増すとなかなか美味しくできます。市販の茹でうどんやそばに片栗粉を適度に混ぜ潰して伸ばし、ピザ生地に代用しても結構美味しいです。この時ピザソースは和風ドレッシングが（今のところ玉ねぎドレッシングが気に入ってます）合うように思います。ついでに残り物の納豆餅の代用もいけます。

竹飾り

お茶会

９月２９日は、「初秋の自然観察会とお茶会」。今年は野の花が例年より少ないように感じていましたが、Ｋさん、Ｙさん手作りの竹筒に生け、テラスに飾り付けると壮観でした。花の飾りつけも整い、お茶会の始まりです。裏千家新藤社中のお点前（御園棚）、そして、お菓子はＳさん手作り、御名は「こもれびの秋」での「お・も・て・な・し」とてもゆったりと時が過ぎて行きました。

１０月２０日は、「花山の秋を満喫しよう！自然観察と芋煮会」花山が誇る一桧山キノコの森での自然観察会後、科学館でスイトン汁とピザ窯で作った焼き芋を楽しみました。キノコといえば、１０月、１１月と当館のサポーターＨさんの「こもれびの森のキノコたち」の写真展示会を開催中です。一桧山と当館の園内で観察したキノコたちです。

そして、１１月３日の一桧山での「紅葉の森でのノルディックウォークｉｎこもれびの森」と、１１月１７日「クズなどの素材でカゴ編みに挑戦！」で楽しいメインのイベントは終了となります。本年もサポーターの皆さまには大変お世話になりました。

さて、今年科学館では一つの「じぇじぇ」が起りました。例年、草間彌生さんの芸術作品を模倣してか、科学館の壁や室内を水玉模様のように飾って（？）くれていたクサギカメムシが創作に訪れないのです。壁のシミにも程遠く、“貴重種”のようです。例年ペットボトル１５本以上捕獲していましたが、現在一本目の底１センチ程です。ちょっぴり淋しい気がするのが我ながら不思議です。

これから科学館は（１２月１日～来年３月３１日）動植物たち共々、雪に埋もれながら春を待ちます。芽吹きの頃、科学館の静かな自然と職員一同は皆さまのお越しをお待ちしております。

ことりのとりこ

ことりはうす　職員　１１期　馬場　則孝

夏も終わり、秋の台風の影響は全国で甚大な被害が発生し、つくづく自然の猛威に脅かされましたが、近年の冬の寒さは今年の冬も「寒冬」傾向になるそうとか。気象庁の発表した「寒候期予報」によれば、冬（12 月から２月）の間の気温は全国的に平年並みか低い予想となっています。それに伴い、雪の量も多くなりそうです。昨冬は、青森県の酸ヶ湯で最深積雪 566 センチを観測したそうで 1979 年の統計開始以来の最高だそう。今年も大雪傾向となることが予想されています。ここ「蔵王野鳥の森」は春から秋までの利用者は、学校の行事で児童や森の散策に来られる一般の方々が多いのですが、毎年冬期間は利用者数が減り、これからの季節「ことりはうす」で閑古鳥が鳴きそう･･･。（閑古鳥がどう鳴くか、私は知らないのですが）

「ことりはうす」の秋のイベント等は、定番の森の癒し体験から野鳥の森ハイキング、森の健康ウォーキング、自然観察会、こども観察会など森を歩く体験、秋の蔵王トレッキングやキノコ観察と食の体験、草木染体験、初めての陶芸、ステンドリーフなどや常設クラフトコーナーでことりブローチ、きらきらツリー、ネイチャークラフトなどの森を楽しむ企画など盛りだくさん実施しました。利用者の方々が初めて野鳥の森に来られて「いいとこね」とか「楽しかった」とか言ってもらえた時、私たちは自分が褒められているようで嬉しいです。中にはお弁当などを持って来られて「野鳥の森」や「ことりはうす」で１日過ごされるご家族の方々もいまして微笑ましい限りです。

私にとって蔵王の森は深すぎて不安になるときもありますが、「ことりはうす」に来ることで蔵王の小さな生き物たちに出逢えることが幸せなのです。１０００種を超える植物やキノコ類やたくさんの昆虫、野生の動物たち。もちろん常にではないけれど、こんなに生き物たちを見ることができるなんて思いもしませんでした。帰宅途中の夕方に体毛が黄色くなったテンが車の前を横切ったり、「野鳥のくらしを探ろう」のイベントでは昨年掛けたシジュウカラの巣箱を観察していると、突然ヒメネズミが飛び出し恐ろしい悲鳴をあげる人がいてさらに仰天。今の季節は館内の受付にいるとサシガメがカウンターやクリンカータイルの床を這っていて、これが他の昆虫やクモを刺して生きてると思うとぞっとします。ヨーロッパの方ではこの虫の仲間が家に入ってきて払いのけた時に人の唇を刺すこともあるので別名「接吻虫」とも呼ばれているそうで、こいつからは絶対キスされたくないと妄想したり。森では今、遅い紅葉が木の葉を落とし始めています。ピンクのメグスリノキや真っ赤なツタウルシ、サワフタギの群青色の実、クサギの実の赤と青のコントラスト。やがて降り積もり分厚いフカフカの褐色のカーペットが敷かれその森の散策路を、空気の澄んだ小春日和の日に木々の間を歩くのが最高なのです。そして雪が降るころアトリやマヒワ、怖い顔のシメ、美しいルリビタキなどの冬の渡りの鳥たちが観察室の餌台や散策路にきます。「ことりのとりこ」とは「小鳥の虜」もいいですが「**ことりはうす**のとりこ」になっていただきたく、思い出したら蔵王野鳥の森に足を運んでみてください

森や「ことりはうす」が気に入ったらボランティア活動もよろしくお願いします。蔵王の森があなたを呼んでいます。（ヤマンバやヌエがよんでいるわけじゃありません）

県民の森の職員として

県民の森　職員　１１期　阿部　英雄

震災により大きな被害を受けた暫定開園中の県民の森の管理事務所で、昨年４月から勤務しています。崩落や陥没で主要幹線車道や管理者道の通行禁止、建物の損傷やままならないトイレの水など何ら不便を感じることなく、県民の森の樹木や山野草の季節の移ろいに感動し癒されていました。散策のリピーターの方や人気のアスレチックに親子で来られる方との出会いも楽しみの一つでした。２年振りの全面開園後の状況等については、何度説明されても観桜期やゴールデンウイーク、紅葉シーズンなどを待ちわびている県民の皆さんの様子を思い巡らすことは難いことでした。

その後、復旧工事も急ピッチで進み、主要幹線車道は平成２４年１２月１日に全面開通、中央記念館・森の学び舎は平成２５年２月復旧工事が完了し、３月１日に全面開園になりました。また、年度末の３月３０日松陵団地からの延焼による林野火災には本当に驚き、昭和５８年４月２７日の林野火災を思い起こさせるものでした。

季節は巡り、樹木は芽吹き、マンサクを始めとする早春の花が次々と開花し、カタクリ、サクラ、サツキ等の開花状況や園内の状況（クマ出現情報・アクセス・アスレチックなどの利用）の問い合わせも日毎多くなり、全面開園を待ちわびている方や来園された方の多さとその感動しきりである事に驚き、想像をはるかに超えました。週末や祭日、さらに、夏休みには親子連れの声が日没まで聞かれ賑わいをみせるようになり、嬉しさを感じるとともに責任の重さを感じました。事務の仕事を進めつつ、再来園に結びつけるよう山野草や樹木等の提供をこまめに行いました。季節の花々等を愛でに来園される方やアスレチックで汗を流し芝生でくつろぐ家族の方等はそれぞれの楽しみ方を満喫されています。リピーターの方からは、散策路がきれいに刈払いされ、自然災害による倒木などいち早く処理し、気持ちよく安心して散策できるとの声も多く寄せられています。日常の事務は遅滞なく進めることを第一と心得て、所長さん始め職員の方に丁寧な指導を受けながら進めています。

これまでの勤務を通して感ずることは、樹木や山野草・キノコ等の質問には満足のいく答えができず悔しい思いをしたことで、一層の精進を痛切に感じています。また、主要幹線車道が開通し全面開園などによる影響と思われますが、不法投棄物やゴミの多さなどマナーが大変気になります。四季折々の美しい山野草や素晴らしい景観が、台無しになることが大変残念です。来園された皆さんとともにマナーを守りつつこの森を大切に守っていきたいと思います。県民の森が色鮮やかに染まるこの時期、変わり行く季節を惜しんでいる今日この頃です。（２０１３．１１．３記）

中央記念館前２０１３/５月撮影

中央記念館前２０１３/１０月撮影

中央記念館前芝生２０１３/１月撮影

リレー式会員の広場

虫との付き合い

１４期　高梨　眞二

イオンチアーズクラブのイベントで、グランディ２１からイオンの森まで子ども達を引率する担当になった時、自分が知っているのは植物だけだったので、乏しい知識を総動員して植物の説明をしていたら子ども達はまったく反応せず、「バッタだ。」「クモがいた。」などと虫に興味津々でした。また、小学校の自然観察会に参加した時も、子ども達は植物には興味を示さず、水生生物探索に熱中していました。「この虫はなに?」と聞かれ、「図鑑で調べようね。」という回答しかできませんでした。自然観察会では、子ども達が興味を示す昆虫やカエル等の動く生物の知識がないと講師は務まらないと痛感しました。

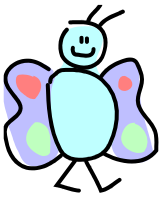
さて、小生は宮城県森林インストラクターになるまでは、植物防疫関連の業界にいましたので、虫が好きというわけではありませんが、虫との付き合いは３０年以上になります。但し、虫といっても農業害虫ですが。営業マンの技術指導を担当する部署に配属された当初は、害虫名を覚えるのに苦労しましたが、農業害虫は作物毎に寄生種が判明しているので、２～３年経った頃からは図鑑を見ながら調べれば大凡の見当がつくようになりました。

農業害虫の名前ですが、幼虫を防除する害虫は、幼虫に名前を付けていることがあります。図鑑には幼虫名と成虫名（＝和名）が記載されています。例えば、イネの葉を食害するイネドロオイムシ、幼虫は糞を背中に背負っているので、この名前がついています。

イネドロオイムシの被害調査をしていると、近くに小さな黒光りする甲虫がいて、何かなと思っていたら、これが成虫でびっくり。イネドロオイムシはイネクビホソハムシの幼虫です。イネの害虫で、長距離移動型の成虫が知られているイチモンジセセリの幼虫はイネツトムシ。長距離移動といえば、アサギマダラが話題になりますが、イネを吸汁して枯らすトビイロウンカとセジロウンカは、ベトナムで繁殖した個体が中国に移動し、そこからジェット気流に乗って日本に飛来します。イネの害虫フタオビコヤガの幼虫はイネアオムシ。皆さんがよく知っているアブラナ科野菜を食害するモンシロチョウの幼虫は、アオムシと呼ばれます。農業分野では、幼虫を防除する害虫は、成虫を知らなくても不都合はありません。なにやら、農業害虫の解説みたいになってしまいました。

退職した時、虫とは縁が切れたと思っていました。しかし、子ども達に虫の名前を聞かれた時、「図鑑で調べようね」と言うだけでは情けないので、また虫の勉強を始めましたが一向に進歩しません。農業害虫の分野では、防除対象によって幼虫と成虫の両方を知らなくても通用しますが、自然観察会ではそうはいきませんよね。また、自然観察会では、どんな虫が飛び出してくるのか分らないのが悩みの種です。知っている虫が出てくるのを祈るのみです。農業害虫は、作物毎に寄生種が分かっているので、何とかなります。

虫の名前がなかなか覚えられず、物覚えが悪いのは加齢が原因と思っていましたが、２０年間の単身赴任での食生活が影響していました。流動食が多かったので、それが災いしてアルチューハイマーになり、覚えたつもりが・・・あれ、この虫の名前何だっけ！



次回は 14 期の庄子明枝さんにリレーします。

森林インストラクターQ&A

　青少年の森の学習館前にフラワーガーデンが出現しました。季節ごとにいろいろな色の花が咲き乱れ、みんなを楽しませてくれます。いつの間に・・・？　いったい誰が・・・？　作り上げたのはキョンキョンこと 14 期の伊藤京子さんです。活動終了後にもコツコツ植え込み作業や草むしりをする姿がありました。伊藤さんをご紹介します。

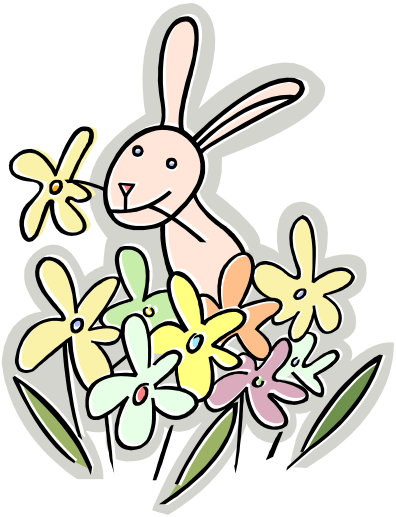
（聞き手　２期　進藤恵美）

Q1：　森づくり作業と井戸掘りに精をだす、頼もしい限りの伊藤さんですが、趣味も交えて自己紹介をお願いします。

A：これといった趣味はありません。ついでに夢無く、希望無く、お金無し、毎日がその日暮らしです。さらに見た目の体格と違って体力は全然ありません。作業の時はもう目いっぱいでしんどいです。

　いやいや、何をおっしゃる、刈り払い機“キョンキョン号”を肩に藪に切り込むさっそうとした姿の目撃者多数、タダモノではない気配ですよ。多くを語らないところがミステリアス♡
　インストラクターになろうと思ったきっかけはヒミツだって。なるべくしてなったと。

Q2：キョンキョンのフラワーガーデンについて教えてください。
つくるきっかけ、工夫した点、苦労したことなど。



A：ある日、午後のお茶をしてると目前の荒れた花壇が話題になりました。「草取りぐらいすればいいのに」と言ったのが運のつきでした。「好きな花を植えていい」と言われすぐに引き受けてしまったわけです。何も考えていないので、本当に乗せやすいおばさんです。

　さて、うきうきと始めたものの、年月の分だけ荒れ方も絡み合っていて手強い。スギナとドクダミを筆頭にコバギボウシ、ノカンゾウ、センダイハギ、シュウカイドウ、シャクヤク、フヨウ、シュウメイギク、スイセンなど、お互いに窒息しそうだし。極めつけはトウカエデ、ゴヨウマツ、ネズミサシの３本の木。仮にこのトリオがシンボルツリーだとしても、これらの配置と組み合わせは謎の代物としか思えないのですが、侃侃諤諤の論争を引き起こす特異な存在でもあります。

　そんなこんなで、とにかく清く明るい花壇を目指したのですが、そうは問屋がおろさなかった。土壌は砂質なので肥料さえあれば良いと思ったのは大間違いでした。南側の鬱蒼としたスギ林は日光をかなり遮ってしまうし、地形的に沢筋なので湿気が抜けない状態で、多くの花々が腐ってしまいました。半分も思い通りにはいかなかったなあ…と、なんだか自分の半生を重ねてしまいちょっとしんみり感傷に浸ってしまったのは余計なことでした。

　最後に、炎天下の草取りや手入れにご協力くださった方々にこの場を借りて心からお礼を申し上げます。また数々のご批評、叱咤、激励、ご指導、ご鞭撻をいただきありがとうございました。来訪者に「きれいだ」と言っていただけるのもひとえに皆様のおかげです。

（裏表紙にフラワーガーデンをカラー写真で紹介しています。）

安全のページ

NO.２０ 安全委員会

「逃げ出した私の車！」

安全委員会　１４期　遠藤　博

１０年ほど前の話になりますが、「逃げ出した私の車」について紹介します。

私は、当時オートマ車の運転に慣れるとマニュアル車の運転がしにくくなると考えてマニュアル車を利用していました。

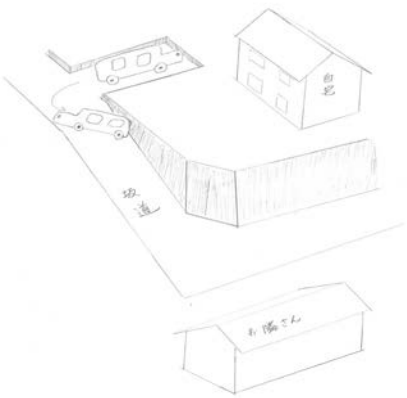
自宅の前は坂道で、その坂道を上り、すぐ右手に駐車場があります。

仕事が終わり、自宅の駐車場にいつものとおり頭から入りました。辺りはもうすっかり暗くなっていました。車を止めてドアを閉め、数メートル玄関側に歩いたところで、自宅下の坂道の方向から「ガガガーン」と、ものすごい音がしました。「いったい今の音は何だろう、ずいぶん大きな音だ」と探して見ましたが、暗くてよく判りません。駐車場に戻ったら、いま止めた車がそこにいません。坂の中間付近に車後部をぶつけてコンクリートブロックを一部壊し、止まっていました。

駐車場に駐車した際にサイドブレーキをかけ忘れ、車はわずかな傾斜がある駐車場からゆっくり抜け出し、急な坂でスピードを上げ衝突したものでした。ハンドルは駐車場に入った角度で固定されていたので、円を描くように駐車場からスルリと抜け出し、１９０度ほど回転してコンクリートブロックに衝突して止まりました。坂道のすぐ下にはお隣さんの玄関と茶の間があり、そこに車が突っ込んだら大事故とになっていました。幸いにハンドルがロックされていて助かりました。

私の運転歴４０年間で車が逃げ出した事件はこの１件だけでしたが、同様な事故が他にもたくさんあるようです。先日入手した事例では、荷物を積んだトラックがゆるやかな坂道で動き出し、人力で停車させようとした運転手が支えきれず、坂下で止まっていた車と動き出した車の間に挟まれ脳挫傷で死亡した痛ましい事故がありました。このように大型車や荷物を積んで重量のある車は一度動き出すと、人力では停車させることは難しいようです。

急な坂であれば誰でもサイドブレーキを確実にかけるでしょう。平らに見えるが「わずかな傾斜」があるところが盲点なのでしょう。「サイドブレーキを確実にかける」「車止めをする」など、基本的なルールを確実に実行することが大切ですが、これを長年確実に行うことは、なかなか難しいのが人というものでしょうか。そのためチェックリストや注意表示、ＫＹ（危険予知）活動、指差し呼称など様々な危険の先取り活動で確実に実行できるような工夫がされています。



私は「車の逃げ出し事件」の後、パーキング位置でないと鍵が抜けないオートマ車に変更しました。

些細な「車のサイドブレーキ掛け忘れ」が人の命を奪う重大な事故に繋がることを頭の隅に置いておく必要があるでしょう。

会員からの寄稿

モンゴル・ゴビ砂漠紀行

１１期　今野　俊夫

世界最強と言われているPower Spotがゴビ砂漠にある。“気功”をやっている仲間と一緒に行ってきたのでその内容について紹介する。

５月２３日早朝。広告などが無い無味乾燥なウランバートル駅に立ち、ゴビ砂漠に向かう列車を待っていた。大きな図体をした緑色の箱型機関車が、ゆっくりとこちらに向かってくる。ガッタンゴットン、ガッタンゴットン。ホームから列車の床までが高く、荷物を積むのに一苦労。両側に軍隊風の制服を着た車掌が立っているが見ているだけ。異国を感じる瞬間であった。ガッタンゴットン旅の夢を乗せて動き始めた。１０分もしない内に見渡す限りのただ広いだけの空間。茶色の台地が連なる。台地の中に続く車の轍。ラクダの時代から続く道なのだろう。ラクダが決めた一本の道。時代は今、その道の主役は日本車のようだ。

４人家族のゲルを訪問した。まさに砂漠の中の一軒家。乳茶でもてなされた。バイク、ベッド、食器類、小さな棚、衣装箱、ストーブ、TVがあった。１時間で移動できる程度の家財道具。ラクダ、馬、羊、ヤギを５００頭ほど飼っていたが、ヤギは草を食べつくしてしまうため数を限定しているとのこと。ゲルを移動するときは動物の子供達を連れて行くと親たちがくっついて来るので逃げられることが無いことなど話してくれた。雨季以外には身体も顔も洗えないはずであるが、何事にも思い煩わず刹那に生きている強さを見せつけられた感じであった。

地中からと宇宙からの「気」が集中している世界最強のPower Spot として有名な「シャンバラ」はゴビ砂漠の西側にある。ウランバートルから電車で１２時間、車で３時間の所にある砂漠のど真ん中。入口には奇妙な顔が描かれていた。２００m位の四方にピラミッド型の仏塔が５m置きに並んでいる。その中心の２０m位の円の中に褐色の砕石があった。「気」が集まる所として炎天下の中、人々は大の字に寝ころがったり、座禅をして瞑想にふけっていた。凡人の私は天からの「気」を感じることはなかったが、元気を充電してもらった瞬間であった。

ノモハン事件の犠牲者が３５００名眠る日本人墓地に行く。ウランバートル郊外の小高い丘にあった。中心には２m位の観音像が「兵士よ祖国日本は」と刻まれた碑を眺め下ろす感じで、日本の方を向いて立っていた。日本から持ってきた日本酒を墓の中心に掛け、立ち去ろうとした時、ビックリするほどの日本酒の香りに包まれ、摩訶不思議な感覚に捕らわれてしまった。散っていった人達の無念さを思う時、胸から熱いものがこみ上げてくるのを禁じ得なかった。「安らかにお眠り下さい」と何度つぶやいたことだろう。

オハヨウ、コンバンハという挨拶のない、オンバイノーで始まりバイラーラで終わる国。一日の気温差が２０度以上もあり草木も育ちにくい。ヒトにとっても生きにくい。平均寿命が６５歳。太陽と共に寝起きし、腹がすいたら食べる。ヒトのDNAはこの様な生活を基本にして出来あがっているのかもしれない。楽に生きるとは、余計なものを持たず自然の息遣いに耳を澄ませ、心の赴くままに過ごす事なのだろうと気づかされた旅であった。

インフォメーション

催しの案内

四ツ谷四方山考現学４

伊達政宗が造らせ、かつては仙台城下を縦横に流れていた四ツ谷用水。今、ほとんど見ることができない四ツ谷用水をどう未来に伝えていくのか、「考えるテーブル」で語り合ってみませんか？　１０分ほどの話題提供（仙台市環境ＷＥＢサイト担当・たまきさん）のあと、話題提供者・参加者を交えての話し合いをします。

日時　２０１３年１２月６日（金）　　１４：００～１６：００

会場　仙台メディアテーク　６Ｆギャラリー４２００　（申込不要　参加無料）

問い合わせ　ＮＰＯ法人　水・環境ネット東北　　E-mail　mizunet@mizunet.org

ＴＥＬ：０２２－７２３－１３９０　ＦＡＸ：０２２－７２３－１３９１

考えるテーブルＨＰ　http://www.smt.jp/thinkingtable2012/

復興支援ボランティア募集

酒田の孟宗竹/カキ棚支援プロジェクト２

カキ養殖棚の主原料となる竹を津波被害にあった松島町磯崎漁業組合に送る活動をしています。当日は竹林整備として笹払いと運搬の作業を行います。

日時　　１２月７日（土）、８日（日）、１４日（土）、１５日（日）　午前９時～１１時

場所　　酒田市中野俣字進藤　冷泉寺裏

申込先・問い合わせ先　　ひらた里山の会（担当・和島）

〒９９９－６７０１　酒田市砂越字中台７０

ＴＥＬ・ＦＡＸ：０２３４－５２－３０４６　　携帯：０８０－２８３３－１３２０

E-mail　nposatoyama@amail.plala.or.jp

本の紹介

『里山資本主義―日本経済は「安心の原理」で働く』藻谷浩介　NHK広島取材班

２０１３年　角川oneテーマ２１刊

里山を利用した地域完結型循環経済の話です。中国地方５県でのみ放送されたものを本にしたものです。インターネットの検索エンジンで「里山資本主義」と入れると、NHKオンラインと出ます。そこから、番組の方もぜひごらんください。

編集後記

今回、企業の森として新しく「にっきそうの森」「カメイの森」が加わりました。美しい森にすべく、地道な活動がまた始まります。ところで、県民の森に吟行に行きたいという声をよく聞きます。県民の森には、四季折々さまざまな表情を見せる豊かな自然のほか、山口青邨という俳人の句碑があって、俳句をつくる人には魅力ある場所なのです。自然観察にとどめず、吟行などのフィールドとしても活用できたらと思っています。　　（９期　篠澤　知子）

活動写真館

サポーター養成講座　９／２３

１１／１０

西コミ　９／２２

西コミ　１０／２０

柴田小学校　９／３０

ニッセイ１０／２７

尚英中学校　１０／４

キャリアシップ　１１／１２

ドコモ　１０／１９

もりもり染め物　１１／３

イオン　１１／２

とうはつ　１１／９

カメイの森　１１／１７

特定非営利活動法人

宮城県森林インストラクター協会

TEL/FAX：022(255)8223

メール：mifi@bz04.plala.or.jp

HP：http://mifi.main.jp